

|    |   |  |
|----|---|--|
| 目次 | 1 | GraSPP Day [林 禎恵 + Wilson Tadashi Muraki Junior] |
|    | 2 | 研究室の窓から [関 啓一郎] / 大学院講義レポート [安田篤史]               |
|    | 3 | 学生インタビュー [中野 諭さん]                                |
|    | 4 | シンポジウム「海洋調査研究産業の現在と展望」[上田大輔] / トピックス             |

## GraSPP Day

協定校との交流イベント



### 林 禎恵 公共管理コース 2012 年度修了

今年も3月21日にSIPA (School of International and Public Affairs, Columbia University) - GraSPP Dayが本郷で行われました。SIPAとGraSPPの学生約40名が集まり、①政治的リーダーに求められる素質とは何か、②先進国＝経済大国と定義できるかというテーマのもと、ランチディスカッションを行いました。

GraSPP側の実行委員会がハードスケジュールをものともせず、抜群のチームワークでディスカッションのテーマを決め、イベントの広報活動を行った結果、SIPAの受け入れ準備は2月末にほぼ万全となっていました。ところがSIPA側の都合で当日のスケジュール変更発生。一時はイベントの中止も案に上りましたが、最終的には無事イベントを開催することができました。

1時間という短い時間の中で学生たちがどこまで交流できるのか委員一同不安でしたが、そんな心配をよそに当日はディスカッションテーマの議論だけでなく様々な意見交換がなされている姿や笑い声があちこちから聞こえてきました。セッションの最後には連絡先を交換している学生も見られ、良きネットワークの場となったのも非常に嬉しく思いました。SIPAのご厚意により、実行委員も自民党議員との意見交換会に同行させて頂き、フリースタイルのディスカッションに参加しました。学生の関心に応じて領有権、TPP、教育問題と幅広い分野について議論が交わされ、異なる立場や視点からの意見を聞いたのは学ぶことが多かったと同時にとても良い刺激となりました。

こうしたポジティブな面があった一方で、社会人経験者が多いSIPAの学生にGraSPPの学生がお子様扱いされたという事件(?)もありましたが、それもまた世界の優秀な学生と渡り合っていくうえで自分をどう見せるか、相手とどう付き合っていくべきかという術を学ぶ良い機会になったのではないかと思います(笑)。

イベント直前まで変更、変更の連続で、個人的には旅行先でもアメリカや国際企画チームの大野さんとSkypeや電話でやり取りをするなどドタバタ続きでしたが、学生生活の最後の思い出深い経験となり、実行委員のチーム力も増したと思っています！

### Wilson Tadashi Muraki Junior, 2nd Year, MPP/IP

The LKY (Lew Kuan Yew School of Public Policy, National University of Singapore) Japan Trip was designed to be an opportunity for students from abroad to have a general idea of what Japan is, the way its government works, some of the most relevant ongoing social and economic debates and a little part of its cultural aspects.

Firstly, we had a seminar where we were presented with the future prospects of energy policies in Japan by Dr. Tatsujiro Suzuki (Vice Chairman of the Japan Atomic Energy Commission). The lecture was followed by a discussion session where the students played the roles of different stakeholders involved in the debates on energy. The purpose of that was to stress the fact that the policy process is affected by various interests, and achieving consensus on an issue such as the future of Japan's nuclear policy involves compromising and intense negotiations. In the following three days, we had a series of meetings with ministry officials, representatives from the civil society, politicians, etc.

The LKY Japan Trip was a great opportunity for understanding how public policy-making works in the real world. Something I found interesting was to hear about the different stakeholders' interactions on a certain matter. In the case of energy policy, for instance, we had the chance to hear about the disputes that exist between local business and civil society, or among different agencies within the government. The current situation of Fukui Prefecture was another topic that especially caught my attention. Fukui has many nuclear reactors. Shutting such reactors down has not only created problems to the prefecture's budget but also had a negative impact on its economic activities.

I think that every Public Policy student should have the chance to explore public matters as much as we did. Interacting with LKY students was a great opportunity to exchange ideas, opinions and views on a variety of things. There are students facing challenges, both personally and professionally, that are very different from my reality, and those students have a lot to teach. I am grateful for having had the chance to visit amazing places in the company of such wonderful people.



教授  
関 啓一郎

## アカデミアと実務の交錯

明治期の東大・早慶は、今よりも実務界に近かったように思えます。

慶應義塾を設立した福澤諭吉は、経済界やメディアだけでなく、大隈重信に協力し、政府に若き知識人を送っています。

その大隈は、福澤門下生で政府の中堅官僚となった者を集めて構想を練り、イギリス流の政党政治の実現と早期国会開設を主張します。福澤は、慶應出身の財界人、記者、弁護士などからなる交詢社を通じてその主張を支援しました。ところが、これが開拓使官有物払下げ事件とも絡んで政府内の対立を生み、大隈は1881年に失脚します(明治14年の政変)。

野に下った大隈は、翌年に東京専門学校(後の早稲田大学)と立憲改進黨を設立し、政府との対決姿勢を強めます。大学で人材を育成して政党にリクルートし、自らの政策を実現しようとするものでした。

政府側はエリート養成の主導権を私立に握られていることに危機感を持ちます。東京大学を1886(明治19)年に帝国大学に改組し、官僚・技術者・学者など、国家の指導的人材を育成する機関とします。

このように初期の大学は、実務界の動きと密接に関係していましたが、長い月日を経て、アカデミアの世界に軸足が移ったように思えます。

これに対し、公共政策大学院はアカデミアと実務の連携・融合を図り、政策ニーズに応じていくものです。フロントランナーとなった日本に不可欠な人材育成の専門教育機関となるよう、私は実務家教員として貢献したいと思っています。学生諸君も頑張ってください。

## 大学院 講義 レポート

第11回



安田篤史

公共管理コース2年

### 「事例研究 (都市地域政策と社会資本ファイナンス)」

【担当教員】 金本良嗣 教授  
日原勝也 教授  
内藤伸浩 教授  
栗田卓也 教授

事例研究「都市地域政策と社会資本ファイナンス」は、都市・交通・インフラなどの社会資本政策を広くテーマとした演習授業です。学生は最新の政策課題に関する講義のあと、各々の興味に応じたグループに分かれます。その後、関係者へのヒアリングやデータ分析などを行いながら研究テーマの問題や解決策を検討していきます。担当の先生方は多様なバックグラウンドをお持ちで、幅広く手厚い指導が受けられます。毎週の発表準備にはかなりの労力を費やしますが、費やした労力に応じた貴重なフィードバックを頂けます。ときには授業が1時間以上延長するほど議論(別名・空腹との闘い)が白熱することもありました。

私のグループは高齢社会を支えるコミュニティバスをテーマとし、国や自治体へのヒアリング、アンケート調査によるデータ分析など費用便益分析を中心とした政策評価を行いました。分析に用いるデータ収集のため、バス停前で利用者への聞き取り調査を行ったのが強く印象に残っています。利用者の生の声を伺えたことは、現実の政策を考えるうえで非常に有意義でした。1月中旬に終日屋外にいたこともあり、あとで大学進学以降最高の熱(39.5度)を出してしまいましたが…。合宿として松山市への現地視察を実施したことも思い出深いです。道後温泉はいい湯加減でした。

1年間にわたり、データ分析を基に政策のあり方を考えること、政策現場を体感することの大切さを学ぶことができました。本授業は、理論と実務の両方を兼ね備えた公共政策大学院らしさが表れていると言えるでしょう。

# インタビュー

## 学生

第14回



公共政策大学院  
学位記伝達式式場

中野 諭さん

2012年度 経済政策コース修了

— 事例研究で武蔵野市民にアンケートを1,000通送ったのには驚きました。

また、羽村市でもアンケート調査を行ったとか。ものすごい行動力ですね。

おかげさまで回収率もほぼ25パーセントと予想以上で、先生方も驚いていらっしゃいました。回収したデータを分析して作成したペーパーに先生方のフィードバックを頂き、それを改訂したものを国土交通省の研究会で発表させて戴きました。そこでもコメントを頂いたので、それを盛り込んだ最終版のペーパーを仕上げているところです。

データを足で稼ぐのが重要だと思っています。去年の事例研究で企業の在宅勤務導入率について調べ始めたところ、在宅勤務の有無を公表してない企業が圧倒的でした。すると担当の先生が「電話で聞いたらいんじゃない？」そこで大学院係にかけあい、会議室に電話線を引いてもらって、ひたすら企業に電話をかけました。仲間と2人で300社くらいに電話したと思います。5社に1社くらいは答えてくれました。データを集めて分析した結果、大企業やIT企業では比較的在宅勤務が導入されていますが、地方の中小企業は、コスト面の問題や心理的抵抗感があるようで、あまり導入されていないことがわかりました。フェイス・トゥ・フェイスのコミュニケーションの有無も影響しているようです。この調査から、手間暇かけて自力でデータを得る大切さを実感しました。



— 学部(京都大学)のときは教育学部だったのに、

大学院で公共政策を専攻しようと思ったのはなぜですか。

もともと政策に興味があり、学部生の頃から教育政策について学んでいました。印象論で語られがちな教育を具体的なデータや証拠で裏付けされた現実的なものとして学びたいと思ったときに、政策評価、財政問題など政策を総合的に学べるGraSPPを選びました。ほかの公共政策大学院という選択肢もあったのですが、大学時代の先輩でGraSPPに先に来ていた方から頂いた「君の問題意識ならGraSPPがいいと思うよ」という一言も大きかったです。

— 就職はどこに決まったのですか。

日本政策金融公庫(以下「日本公庫」)に決まりました。日本公庫は東日本大震災でも特別な融資を行ってしまっていて、それに関われたらとも思っています。2011年8月を皮切りに、何度か南三陸にボランティアに行くうちに地元の方と信頼関係を築きました。ボランティアの内容は、物資の運搬、避難所の清掃、学習支援、福興市(南三陸で行われている復興のシンボルとなる市)やお祭りの手伝いなどです。水産業を営む方とも知り合いになり、南三陸の海産物、とくに鮭や蛸はおいしいです、通販もありますと宣伝を頼まれました(笑)。

被災地のボランティアを初めて経験し、支援の実際の問題やボランティアの限界を痛感しました。救援物資が大量に届いたものの、必要なところに行き渡らずに山積みになっていたり、お菓子やカップ麺が余っていて子供がそれをずっと食べていたりという光景も目にしました。缶詰もずいぶん余っていました。逆に卵など生鮮食品が不足しており、自衛隊の炊き出しでは意識的に卵などを使った料理を提供していたと聞いています。実情に即したニーズは足を運ばないとわからないと身をもって実感しました。

(インタビュー・文責 編集担当)

# 「海洋調査研究産業の現在と展望」

～海洋に関する多様な調査研究の国内と海外の事情の全体像を把握し、今後の展望を探る～

上田大輔 特任准教授

我が国の海洋ガバナンスは、国連海洋法条約や海洋基本法と関係法令により設定された大きな枠組みの中で、その実効性を高めるため様々な主体により多様な取り組みが進められていますが、調査研究を通じて科学的知見を充実させるとともに、海洋の開発、利用、保全等を担う産業を創出・振興することも、海洋ガバナンスを確立するうえでの重要な要素となっています。

このような複数の要素が交錯する海洋調査研究産業に着目して、学術・実務の各分野において、国内外で産官学の様々な主体により進められている調査研究の現況、関係者間の役割分担等について幅広く把握し、今後の展望を探るという観点から、公共政策大学院は海洋アライアンス及び政策ビジョン研究センターの共催、独立行政法人水産総合研究センターの後援で、2013年2月26日に、標記のシンポジウムを開催しました。

奥脇直也名誉教授の開会挨拶と城山英明副院長による趣旨説明に始まり、基調講演として、高木健・新領域創成科学研究科教授より海洋産業の創成・振興に関する展望について、John Gunn・オーストラリア海洋科学研究所長より豪州の海洋分野における科学と産業の効果的な連携関係の構築について、論じていただきました。次いで、道田豊・大気海洋研究所教授より海洋情報の一元化の取り組みと民間調査研究機関について、白山義久・独立行政法人海洋研究開発機構理事より海洋産業としての環境評価の可能性について、講演いただきました。実務的な各分野の専門家からそれぞれの現状と展望に関して論じていただくセッションでは、海洋鉱物・エネルギー分野について山野澄雄・株式会社フグロジャパン代表取締役社長、水産分野について和田時夫・独立行政法人水産総合研究センター理事、海洋環境影響評価等分野について鈴木さとし・日本エヌ・ユー・エス株式会社地球環境ユニットリーダー、海洋における地球温暖化対策分野について喜田潤・公益財団法人地球環境産業技術研究機構主任研究員にレクチャーいただきました。その後、すべての講演者をパネリストとし、城山副院長の進行でパネルディスカッションを行いました。

このシンポジウムは、学術や実務の世界でそれぞれに進められている海洋に関する調査研究を横に並べて議論して産業化の可能性を模索するという実験的なものであり、120名程度が参加して有意義な議論が行われました。



## TOPICS トピックス

当大学院の鎌江伊三夫特任教授、林良造客員教授、城山英明副院長が監修した『医療技術の経済評価と公共政策』が、じほう社より2013年4月20日に発売されました。増大する医療ニーズと医療費抑制のジレンマを抱える日本では、費用対効果を加味した診療報酬制度の検討が政府で始まっています。本書では、本学教員を中心とした執筆陣が評価手法と外国の実例を紹介し、日本での制度化に向けた課題と針路を提示します。厚労省中医協の森田朗会長（本学名誉教授）を囲む座談会も収録されており、「価値に基づく」公共政策立案の入門書として行政関係者、社会人、学生に広くお勧めの一冊です。



CAMPUS Asia プログラムに特化したホームページを開設しました。GraSPPが北京大学、ソウル大学と提携して実施しているCAMPUS Asiaプログラムや、今年4月からスタートした「公共政策キャンパスアジアコース」について詳しく説明しています。「現地レポート」では、北京大学とソウル大学に留学したGraSPPの学生の生の声をお届けしています。ニュースは随時掲載していきますので是非アクセスしてください。

<http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/campusasia/index.html>

## 編集 後記

本郷キャンパスではいろいろな花が楽しめます。今年は気候のせいはずいぶん早く染井吉野が満開となり、そのあとには赤門脇の八重桜が目を楽ませてくれました。そして今は、懐徳館の庭の赤い石楠花が咲き誇っています。たまには一息入れてよそ見をすることも大切ですね。（編集担当）

NEWSLETTER [編集・発行] …… 東京大学公共政策大学院  
GRADUATE SCHOOL OF PUBLIC POLICY  
THE UNIVERSITY OF TOKYO

第32号

[発行日] …… 2013年4月30日

[デザイン] …… 安孫子正浩（水蒸気図案室）

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 tel 03-5841-1710 fax 03-5841-7877

E-mail grasppnl@pp.u-tokyo.ac.jp <http://www.pp.u-tokyo.ac.jp>